

# GitHub Pages 公開マニュアル

v1.4.1 Final — ふじさわ節キャプション版 (Aomidori)

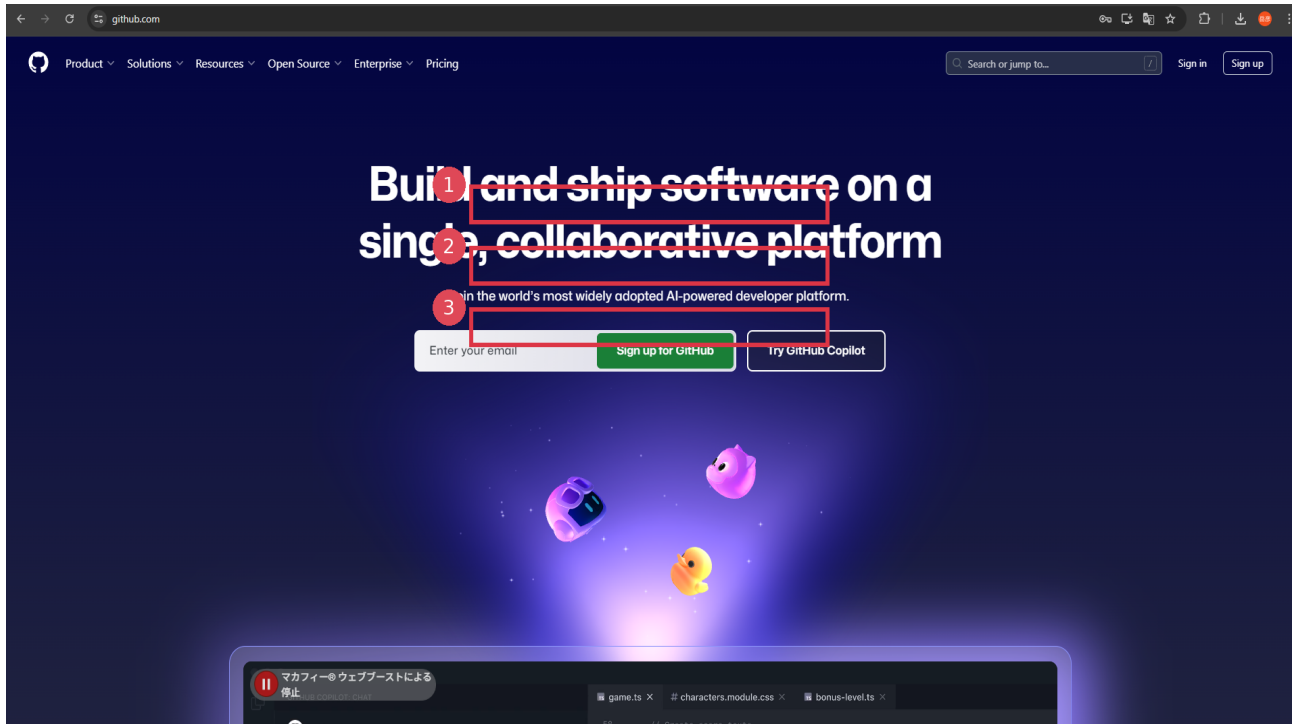
JK1JAD

## 1) ログイン

門番にご挨拶。ここで名乗らずに扉の前で念力を送っても開きません。まずは落ち着いてユーザー名とパスワード、そして『Sign in』をカチッ。

ボケ：『パスワードは心で覚えてます！』

ツッコミ：『心は暗号化されてない。指を動かして打ち込もう。2FAも忘れずに！』

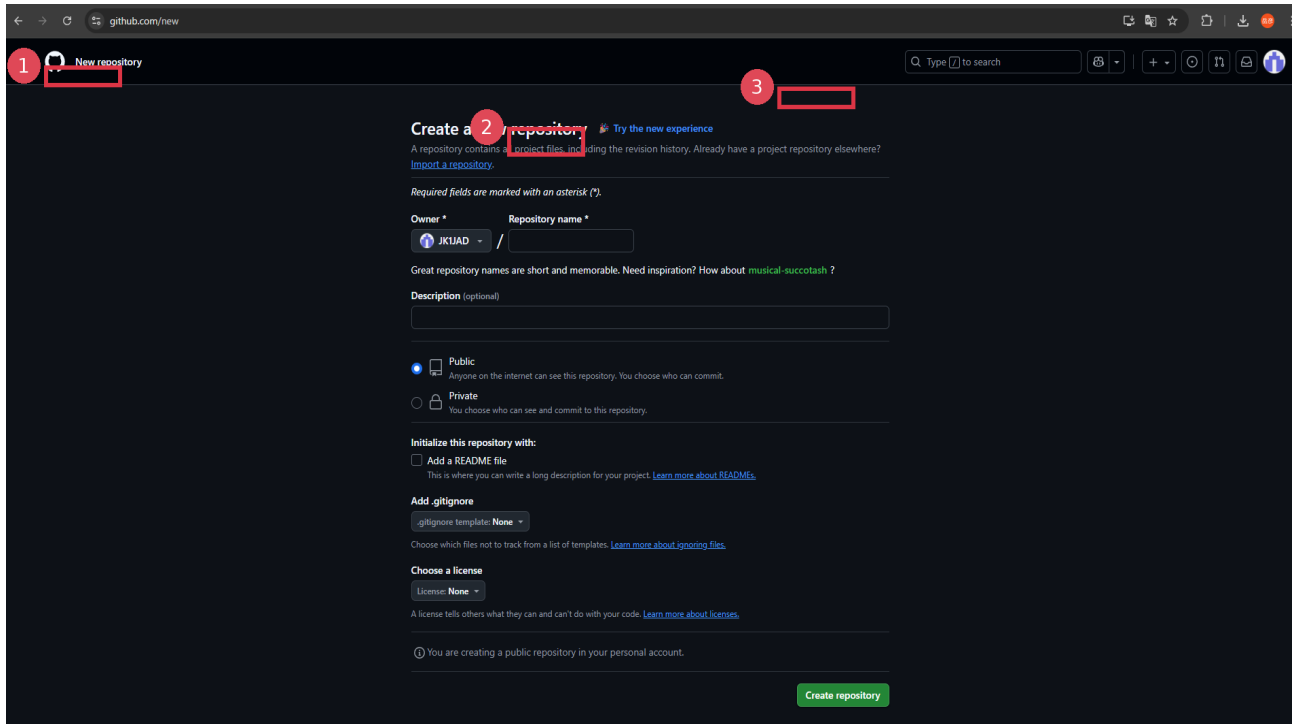


## 2) リポジトリの Code ビュー

ここが作業の母港 = Codeタブ。迷子になったらとりあえずここへ帰港。ブランチと『Add file』が見えれば、次の一手はいつでも出せます。

ボケ：『Settingsの奥地に住みます』

ツッコミ：『住民票はCode。設定は用が済んだら帰っておいで！』

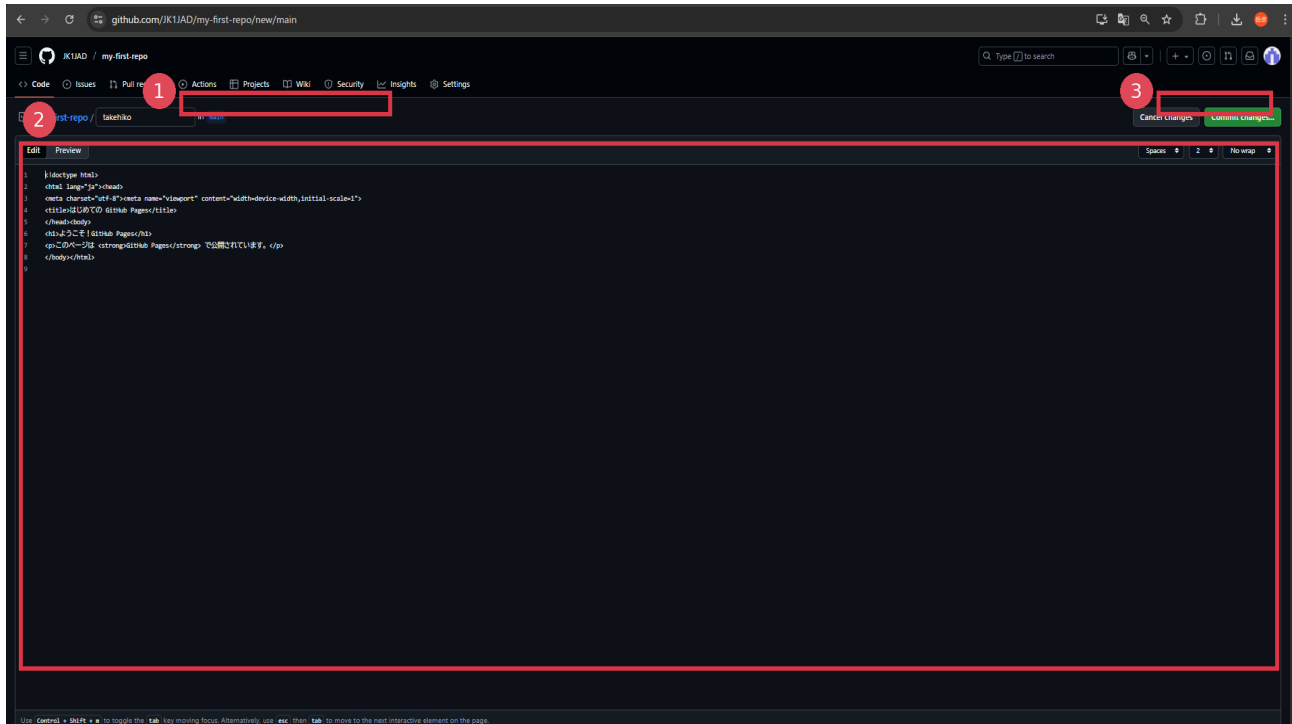


### 3) 新規作成：index.html

Webサイトの表札 = index.html を新築。ファイル名がズレると訪問者は家の前で途方に暮れます。本文は最小HTMLでOK、仕上げて『Commit changes』で鍵をかけるまでが作法。

ボケ：『home.html でも通じるっしょ？』

ツッコミ：『通じるのは家族だけ。初めての人に表札を出そう = index.html！』

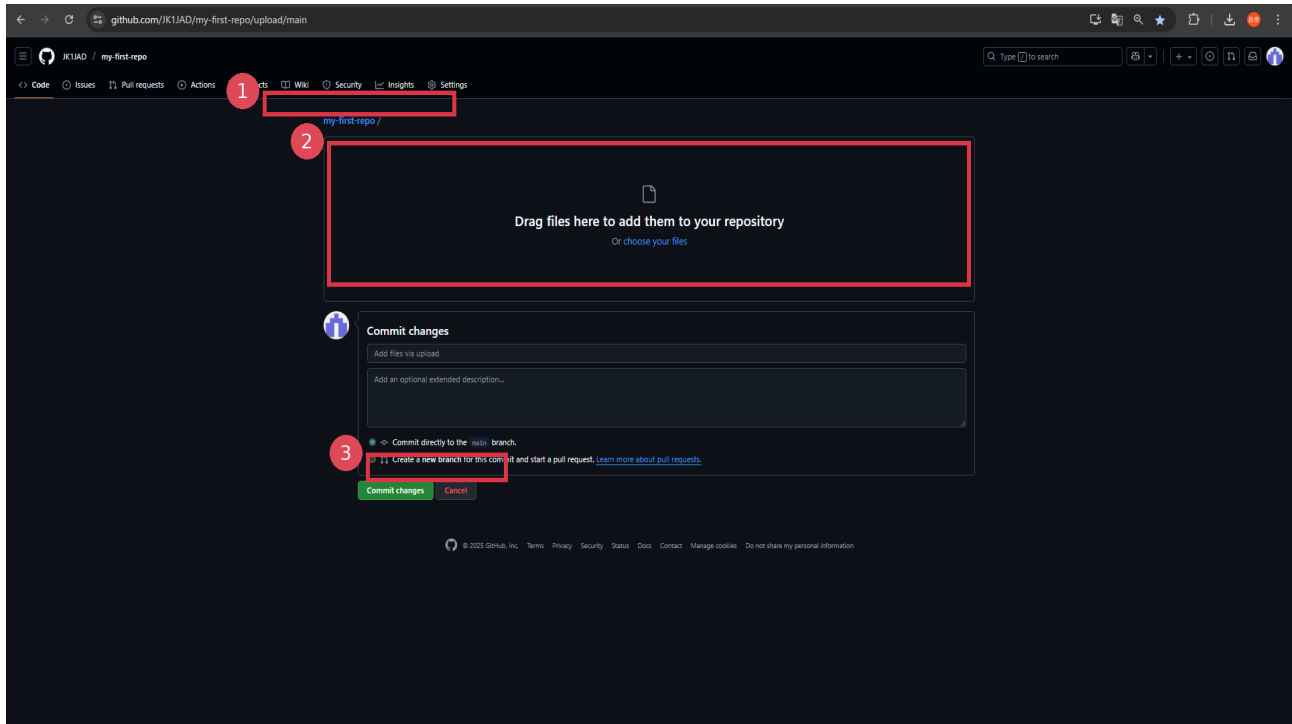


#### 4) 画像をアップロード ( assets/ )

画像は assets/ にお引越し。パス欄に『assets/』と書いてから、ドラッグ&ドロップで荷ほどき。コミットメッセージは“何を入れたか”一言メモが吉。

ボケ：『Cドライブ直置きでいきます』

ツッコミ：『それは引越し屋さんが泣くやつ。住所（フォルダ）を書いて届けよう！』

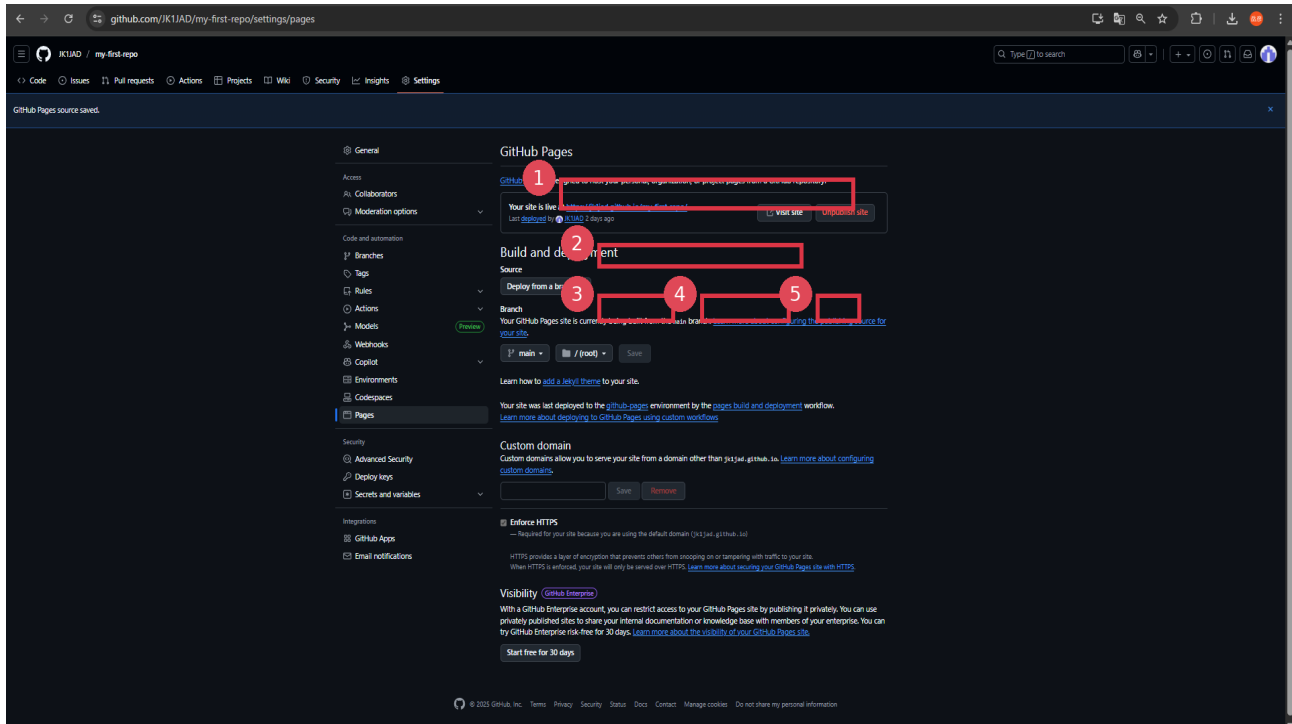


## 5) GitHub Pages を有効化

公開の三種の神器：Source / Branch / Folder。三つ巴がそろって初めて光が差します。最後の『Save』まで押して、反映の数十秒をコーヒーで見守ろう。

ボケ：『設定変えたのにURLが出ない！』

ツッコミ：『Save押してない選手権、優勝です。ボタンは押すまでが設定！』



## 6) テーマ選択（任意）

テーマは任意。素のHTMLで身軽に行くもよし、Jekyllで衣装替えするもよし。使うなら `_config.yml` に `theme: minima` を一行、まずは小さく着てみよう。

ボケ：『衣装替えしないと外に出られません？』

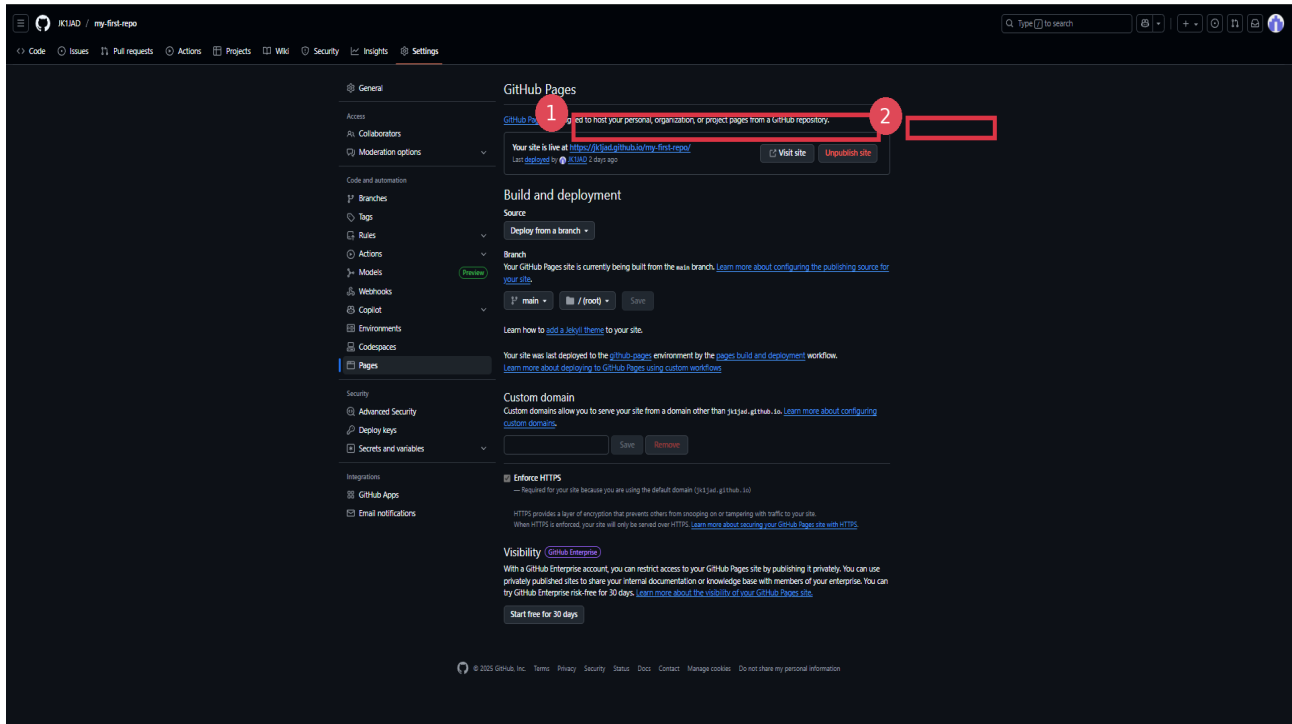
ツッコミ：『私服（`index.html`）で十分イケてる。必要になったらクローゼット（Jekyll）へ。』

## 7) 公開URLを確認

Your site is live at — ここがあなたの名刺。『Visit site』は握手ボタン。クリックして、ちゃんと会えるか確かめよう。

ボケ：『URLは手打ち派です』

ツッコミ：『武士のたしなみはクリックにもある。まずはリンクから堂々と！』





## 8) 公開サイトの表示

画面が出たら勝ち。表示が崩れたらファイルの置き場所とUTF-8を疑い、画像は拡張子の大小混在に注意。スマホ幅もサッと確認して“見られて嬉しい”仕上がり。

ボケ：『.PNG と .png の違いは気持ちの問題』

ツッコミ：『気持ちでブラウザは動かない！ファイル名は一字違いでも別物！』

